

新規陽性者の発生動向・医療提供体制の状況

1 大阪府の感染状況

(1) 感染状況

- 新規陽性者数は5週連続して減少しているが、依然、**5,000人を超える規模での感染拡大が継続**。
陽性率は2割を超過。無料検査の陽性判明率は6%を超過し、1月上旬より高い。**市中で感染がまん延した状態が継続**。
- **年代別新規陽性者数移動平均は、直近で下げ止まりの傾向が見られる**。
10代以下が新規陽性者数に占める割合が増加。**70代以上の割合はやや減少したが依然7割を超過し、直近1週間で約400人/日確認**。
- 医療機関・高齢者施設のクラスターは、**第六波**（R3.12.17～R4.3.13）で**636施設、陽性者数12,000人弱**、第四波・第五波と比べ多数。
陽性者が複数発生した372施設のうち、**連携医療機関での治療や連携医療機関以外の往診等による治療を実施した施設は8割を超過**。
残りは保健所等の健康観察で対応。
- **ワクチン追加接種は、65歳以上で69%**（3月15日時点）。
高齢者施設へのワクチン追加接種は、3月15日で95%（国調査結果(3月10日時点)）。

2 入院・療養状況等

- **軽症中等症病床使用率・運用率ともに6割近くとひっ迫した状態が続き、重症病床使用率を含めた病床使用率は57.7%**（3月15日時点）。
新規陽性者数が減少傾向（前週増加比が1を下回った状態が継続）であり、**当面の間、病床使用率は緩やかに減少する可能性**。
（大阪モデルの赤信号（非常事態）解除の目安（7日間連続50%未満）は満たしていないことから、医療非常事態は継続。）
- 一般救急患者の搬送困難事案件数は依然高水準であるが、**一般救急医療はひっ迫した状態は改善傾向**。

<第六波の死亡例分析（第四波・第五波との比較）>

- ・3月13日時点での死亡例は1,232名
（9割以上が70代以上。医療機関や高齢者施設におけるクラスターの発生などにより、70代以上の新規陽性者が全体の1割と多数発生していることが背景）。
- ・新規陽性者数に占める死亡者数の割合である**死亡率は、第四波、第五波と比べ、第六波は各年代で低下**。
発症日から死亡日までの日数に関しては、死亡例の約9割以上を70代以上の高齢者が占め、**死亡例のうち約6割が診断前及び診断7日以内に死亡**。
- ・第六波では、**新型コロナウイルス以外の疾患や老衰での死亡者が約4割**。

感染状況と医療提供体制の状況について

今後の対応方針について

- 新規陽性者数は減少傾向が続いているが、**年代別新規陽性者数移動平均はやや下げ止まりの傾向**が見られ、陽性率の高さからも、**市中感染がまん延した状態**。
人流は現時点で大きな拡大は見られないが、まん延防止等重点措置を先行して解除された広島県や山口県、沖縄県では、**人流の拡大とともに陽性者が増加する傾向**が見られることから、今後の人流の動向にも注視が必要。
- **医療提供体制については軽症中等症病床使用率・運用率や一般救急医療がひっ迫した状態は改善傾向にあるが、水準としては依然、高い。**
- 府内ではオミクロン株の変異種であるBA. 2 系統が複数確認されており、**BA. 2 系統への置き換わりに伴う感染拡大の可能性**も考えられる。
(国のアドバイザリーボードでは、4月第1週で7割、5月第1週でほぼ置き換わるとの試算を公表)
- 今後、卒業式や春休み、3連休やお花見など、**多くの人が集まる機会が増え、感染機会が拡大**。昨年の第四波も、3月中旬から感染が拡大（3月20日に見張り番指標が感染拡大兆候を探知）したことから、**感染再拡大の可能性が高い**。

⇒今後の人流拡大や感染機会の増加、BA. 2 への置き換わりによる**感染再拡大の可能性が高いこと、医療提供体制は改善傾向にあるものの、依然、病床使用率などの水準が高いことから、感染再拡大に伴いすぐにひっ迫する可能性がある。当面、感染抑制策の徹底が求められる。**

⇒オミクロン株による感染拡大が再び起こった場合に備え、オミクロン株の特徴を踏まえた感染防止策の強化・徹底が必要。

- ・高齢者への感染拡大を防ぐため、**ワクチンの追加接種の促進**をはじめ、**高齢者施設従事者の検査体制の確保**や**地域の医療機関との連携による感染対策の指導の促進**
- ・**高齢者施設への迅速な往診治療体制の確保**や、**地域において診療・検査から外来や入院など症状に応じた治療が速やかに受けられる体制の強化**により、**早期の受診・診断から重症化予防等の治療の迅速・円滑な実施**。